

ぼく、入院することになっちゃった



ばく、たくや。^{しょうがっこう} ^{ねんせい} 小学校1年生。

^{ねつ} ^で ^{ちか} ^{いしゃ} 熱が出て、近くのお医者さんに、^{おお} ^{びょういん} ^い 大きな病院に行くように言われたんだ。

^{とう} ^{かあ} お父さんとお母さんは「だいじょうぶだよ」と言ったけれど、

ばくはすごく^{しんぱい}心配になった。

^{かあ} お母さんは、「^{おお} ^{びょういん} 大きな病院でもう1回^{かい}くわしくみてもらうから、

^{がっこう} ^{やす} 学校はお休みするのよ」って^い言った。

^{とう} ^{ねえ} ^{み ま} ^い お父さんも、お姉ちゃんもお見舞いに行くからがんばれって---



びょういん げんかん よこ いけ
病院の玄関の横に池があった。

こっちを^みている^{かめ}と^め目があったけど、

そばには^い行けなかった。



お医者^{いしゃ}さんが、「やっぱり入院^{にゅういん}して、よく調^{しら}べた方^{ほう}がいいですね」って、
いろいろお話^{はな}ししてくれた。

ぼく、入院^{にゅういん}することになっちゃった。



かんごし
看護師さんが、これから入院するお部屋にあんないしてくれた。

となりのベッドの男の子が

「ぼく、しゅん。あたらしい
新しく入るの？なかよくしてね」って。

ぼくもあの注射(※)をするのかなーって思ったらちょっとドキドキした。

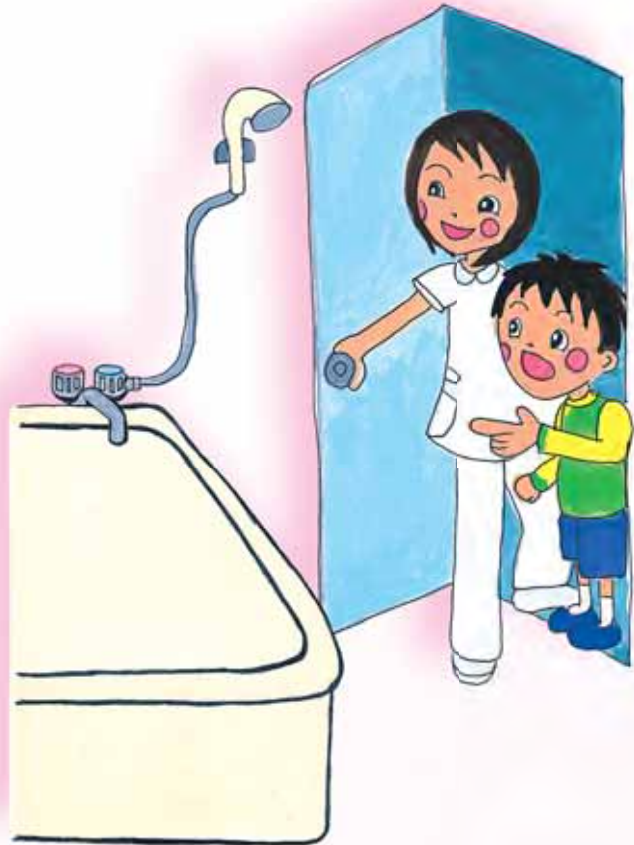
てんてき
(※点滴といいます)



ぼくが入院した4階は、おうちと同じでお風呂もあるし、

食堂まであるんだ。

ベッドには、ぼくだけが見られるテレビがついているんだよ。





お医者^{いしゃ}さんがお部屋^{へや}に^き来て、

「こんにちは、たくやくんのお医者^{いしゃ}さんで、安藤^{あんどう}と言います。よろしくね。

たくやくんは熱^{ねつ}がでたよね。からだにバイキン^{ばいきん}が入^{はい}ったせいだと思うけれど、

くわしく調^{しら}べないといけないんだ。だから入院^{にゅういん}してもらいました。

これからからだの写^{しゃ}真^{しん}（レントゲ^{れん}ン^{とげん}）をとったり、

注射^{ちゅうしゃ}をしたりするかもしれないけれど、何^{なに}かする前^{まえ}には、

どんなことをするのか、ちゃんとせつめいします。いいかな？」って言^いった。

ぼくは、いやだったけれど、がんばって「うん」って言^いった。



「こんにちは、たくやくんの^{かか}係りになった^{やまもと}山本です。

いっしょにがんばろう」って^{かんごし}看護師さんが^い言って、

^{ねつ}お熱を^{はか}測ってくれた。



よる
夜になって、お父さんが来てくれた。

ねむるまでいっしょにいるって、9時までおぼえていたけれど、



ねむってしまった。



「ぼく、カメ吉。朝、目があったよね。玄関の横のカメ池に住んでいるんだ。

今日、きみが来たとき、すごく心配そうな顔をしていたね。

ちょっと病院のこと、教えてあげようか？」

ぼくは、うれしくなった。

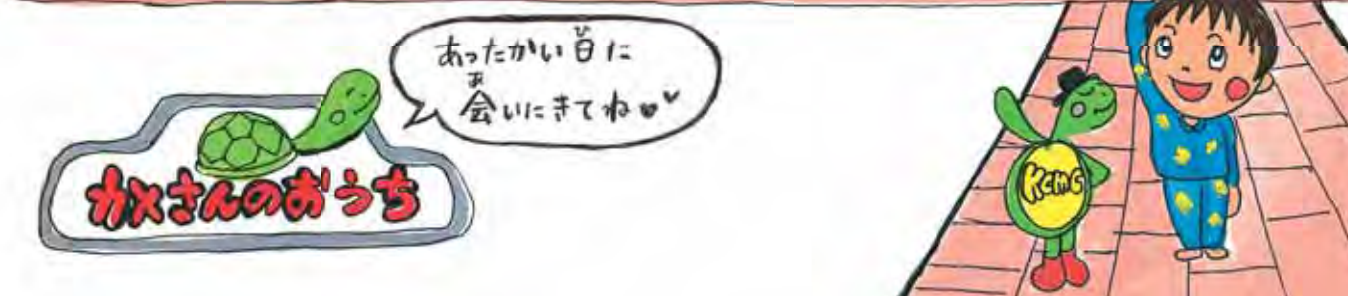
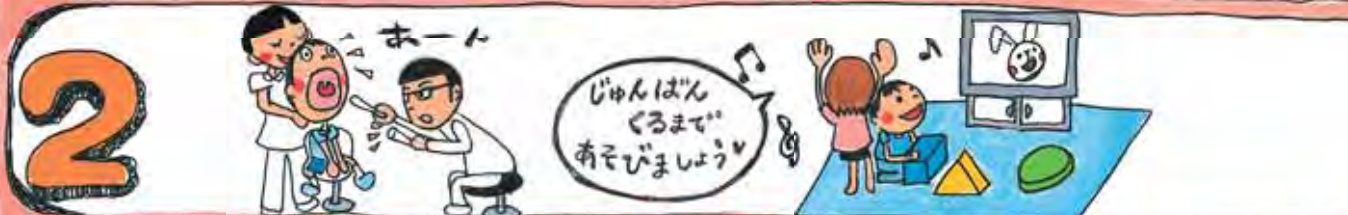
ぼくと、カメ吉はお部屋をそっとぬけ出した。



がん管理棟



こころの診療棟
こころのしんりょうとう



ほんかん
本館

えほんを
よみましたー



じょういんに
おせまりして
がんざつてるよ。



かんこしさんが
お風呂の
おつだいをしますよー

せんせい
先生が
からだのこと
を
考えますよー!!



はーい

なにがあるかな?
さがしてみよう!!

さくなんが
ないさー!!
だいじょうぶ!!



しゅうさんき どう
周産期棟



あいた
わている間に...
みんなのからだを
いたさ
元気にする おつだいを
するよ。

おにこ
男の子かな?
女の子かな?



歩く ☆
けんしやするよ



じやう
の
じかん。



しゅうさんき どう
施設リハビリ棟

「この病院には、学校もあるんだよ」とカメ吉が言った。

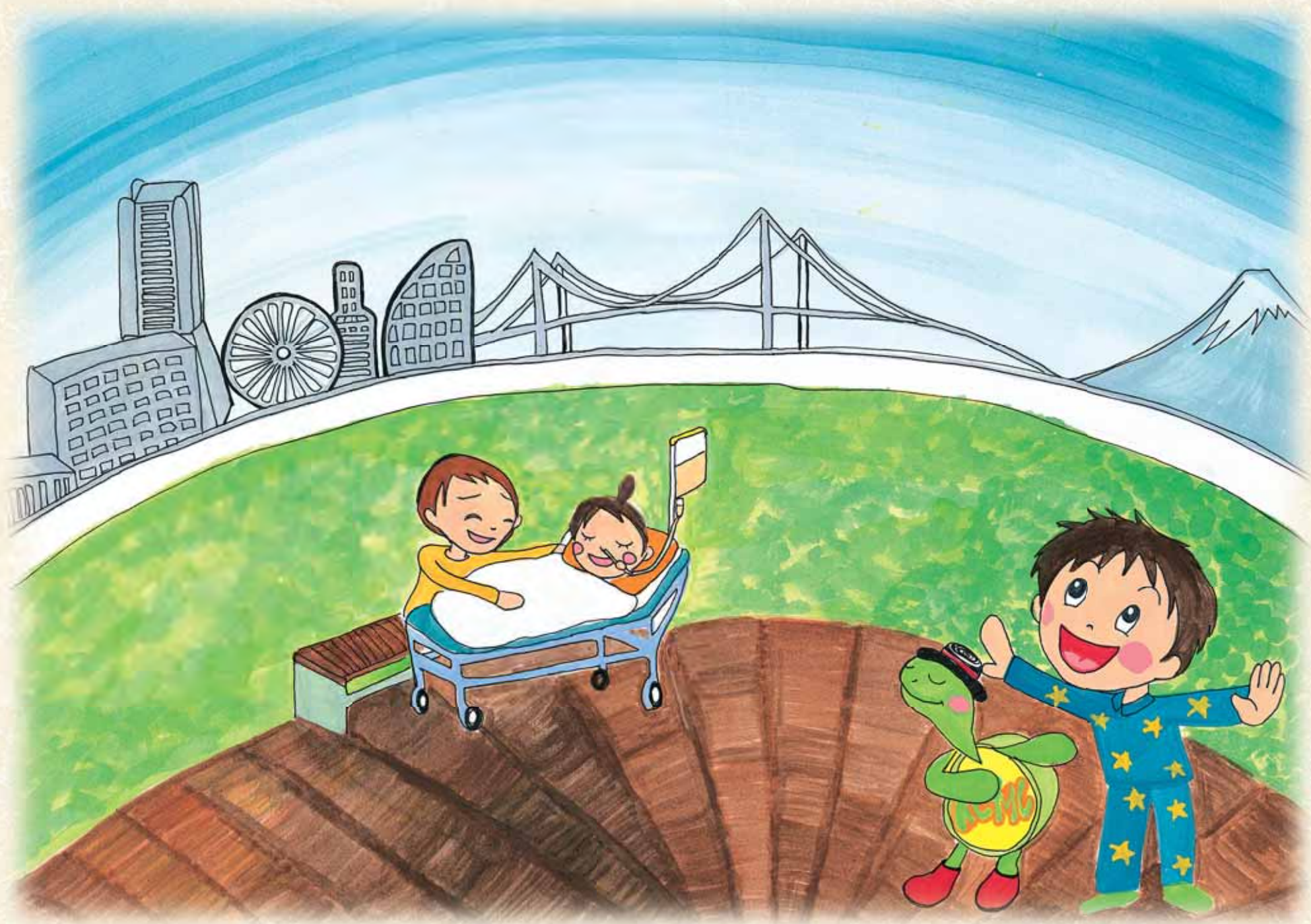
さいごに屋上に行った。「ここは池の次にステキな場所さ。

富士山が見えるし、ベイブリッジも見えるんだ」

そこは、お花がさいいて、

お母さんとベッドのまま散歩している子がいた。





「たくやくん、おはよう。朝だよ。お熱を測ろうね」あれ～？看護師さんだ。

カメ吉は？どこに行っちゃったのかな？顔をあらって、食堂に行った。

みんなでごはんを食べた。そのあと、保育士さんと本を読んだ。

10時になったら、お母さんとお姉ちゃんが来てくれた。

カメ吉の話をしようと思ったけど、

ヒミツにすることにした。

話さないほうが

また会えるような気がしたから。





つぎ ひ とんねる はい
次の日、トンネルみたいなきかいに入るけんさがあった。

ちゅうしゃ てんてき しんぱい
注射（点滴）をすることになって、心配だった。

「いたいのは、さいしょだけだよ」って、しゅんくんの言った通りだった。

かめきち あそ
カメ吉は、しゅんくんと遊ぶようになったら、
ゆめに出でこなくなった。

かめきちさんぽ
カメ吉との散歩はできなかったけど、

かあねえ おくじょう い
お母さんとお姉ちゃんと屋上に行った。





ぼくのまわりには、^{くるまいす}車イスだったり、ねたままだったり、すっごく^{げんき}元気で、
なんで^{にゅういん}入院しているんだろうと思う^{おも}子^こもいた。

^{びょういん}病院にはいろいろな人^{ひと}が^{はたら}働いているんだ。

^{いしゃ}お医者さんと^{かんごし}看護師さんは知^しっていたけれど、
もっといろんな人^{ひと}もいた。

^{まえ}前のベッドの子^こは、^{り は び り}リハビリの^{せんせい}先生と
^て手や^{あし}足を^{うご}動かす^{れんしゅう}練習をしていた。





ぼくは、^{ねつ}熱が^さ下^{たいいん}がって退院することになった。

しゅんくんは、「ぼくも、がんばる」ってあく^{しゅ}手してくれた。

みんなも「おめでとう」って^い言^{かあ}って^かくれた。お母さんにカメ吉の^{めきち}ことを^{はな}話した。

お母さんは、「じゃあ、カメ吉^{かめきち}くんに^{たいいん}退院のあいさつをして^{かえ}帰^いろう」って^い言^{かあ}った。



^{ばんかん}玄関の^{よこ}横の^{いけ}池^いに行^{ねえ}った。お姉^{おな}ちゃん^みが、

「みんな、^{おな}同^みじに^い見^いえ^いちゃう」って^い言^{かあ}った。



だけどぼくはわかった。なぜって、ウインクしたんだ。

かめきち
カメ吉は、ほんとうにウインクしたんだ。 





ぼく、入院することになっちゃった・・・

(神奈川県立こども医療センター入院案内パンフレット)

文・構成 / 神奈川県立こども医療センター絵本プロジェクト

(安間 のぞみ・石毛 紗智・尾花 由美子・上笹貫 希・作山 千晶・
鈴木 真介・鈴木 奈恵子・棚橋 佳世・廣田 とも子・松本 浩正・
康井 制洋・山口 文子・渡部 玲子)

絵 / 上笹貫 希

発行 2010 年 3 月 19 日 第 1 刷

監修 / 神奈川県立こども医療センター 絵本プロジェクト

〒232-8555 神奈川県横浜市南区六ッ川 2-138-4

電話 045-711-2351 代表 尾花 由美子

印刷 / 内村印刷株式会社

著作物の著作権は、著作者（絵本プロジェクト）に属する。
本誌の無断転載・複写を禁じる。

(非売品)